

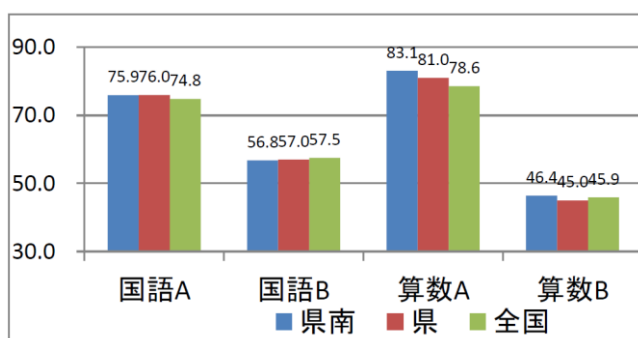
県南域内の調査結果の概要

<平均正答率での比較>

■は、県南が全国平均正答率を上回っている教科

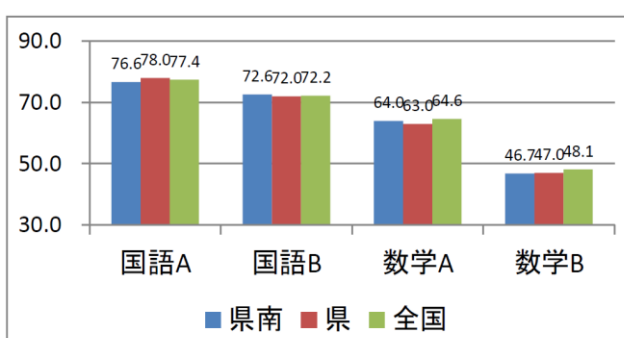
<小学校>

	国語A	国語B	算数A	算数B
県南	75.9	56.8	83.1	46.4
県	76.0	57.0	81.0	45.0
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

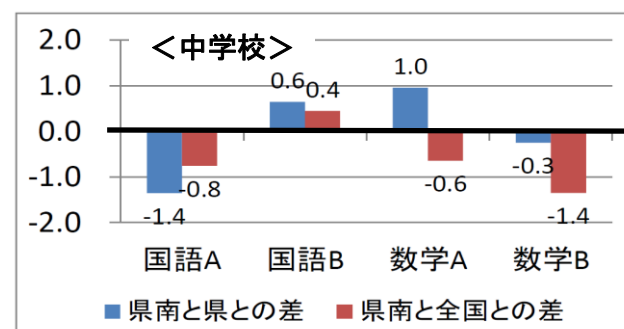
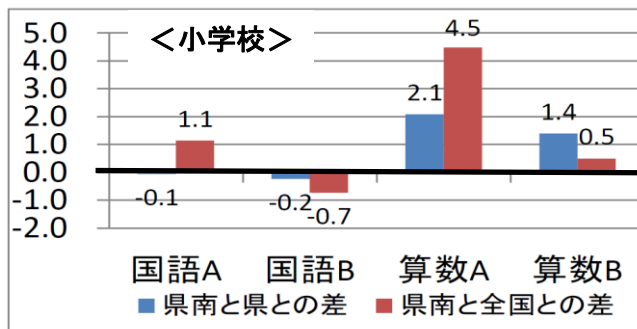


<中学校>

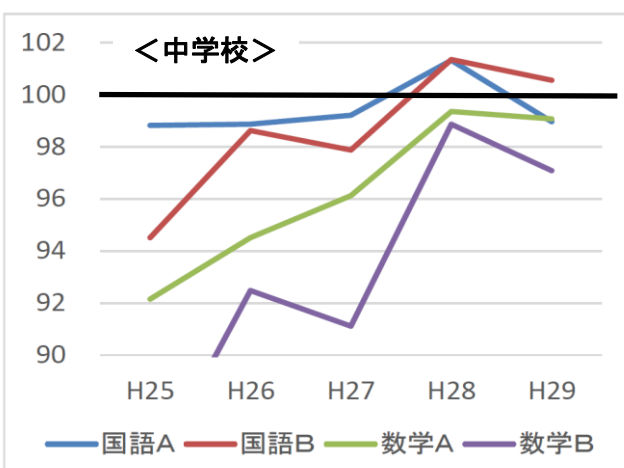
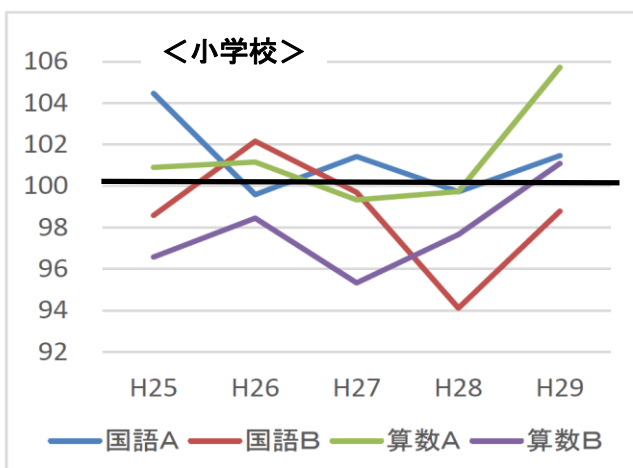
	国語A	国語B	数学A	数学B
県南	76.6	72.6	64.0	46.7
県	78.0	72.0	63.0	47.0
全国	77.4	72.2	64.6	48.1



<県南と県、全国との平均正答率の比較>



<全国平均正答率を100としたときの5年間の推移>



本年度は、小学校では、国語A、算数A、算数Bで、中学校では国語Bで全国平均を上回りました。特に、小学校の算数Aでは、大幅に上回っています。小学校で国語B、中学校で国語A、数学Bでは、県、全国平均をともに下回っており、課題としてあげられます。

また、全国の平均正答率を100とした5年間の推移では、全体的に、小学校は、上昇傾向がありますが、中学校においては、昨年度大幅に上昇したこともあり、本年度は若干下降傾向が見られます。

※ A問題とは、基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

※ B問題とは、基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

調査結果を今後に生かすために

調査結果は、みんなで組織的に分析する。

教員みんなで分析することで、自分の担当する学年では、どんな力を身に付けさせることが必要なのかが分かり、授業改善に役立ちます。

8月末に県教育委員会より発行された「平成29年度授業改善グランドデザイン（全国学力・学習状況調査の結果分析と学力向上の方策）」には、下のようなクロス集計結果が掲載されています。

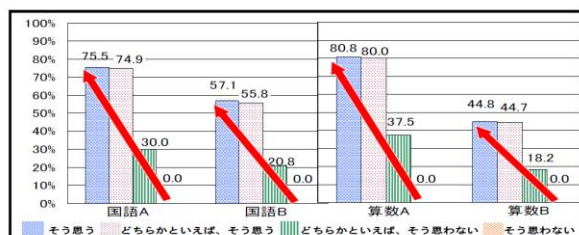
学校全体の学力傾向や課題について、全職員の間で共有した学校の方が平均正答率が高い傾向があることが分かります。

教員相互の学び合いに基づく校内研修の活性化

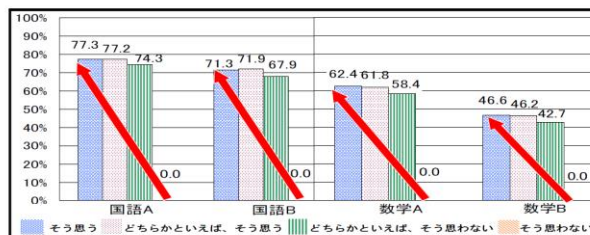
○ 学校全体の学力傾向や課題について、全職員の間で共有していますか

【学校質問紙】

小 学 校 クロス集計(児童が回答した選択肢別正答率)



中 学 校 クロス集計(生徒が回答した選択肢別正答率)



課題にある問題は、再度、取り組む。

分析の結果、特に正答率の低かった問題については、再度取り組ませることで、学び直しができ、弱点補強につながります。

国語、算数・数学それぞれの「授業と全国学力・学習状況調査をつなぐ一発検索くん」を活用すれば、手軽に問題を印刷することができます。

※ 「授業と全国学力・学習状況調査をつなぐ一発検索くん（理科編）」も作成・配付しました。ぜひ、ご活用ください。

学力向上マネジメントワークシートを使って、 自校の1学期の取組を振り返り、2学期の指導に生かす。

学力向上グランドデザイン及び学力向上マネジメントワークシートに基づき、自校の1学期の取組の成果と課題を明らかにし、2学期継続していくこと、取りやめること、2学期から新たに加えることなどを全職員で検討して推進していくことが大切です。

調査結果を学力向上マネジメントワークシートのPDCAサイクルのチェック機能として役立てていることが組織的な取組を進めるにあたって大切です。